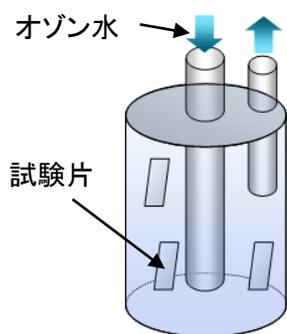


オゾン水浸せき試験

近年、浄水の除菌や洗浄を目的にオゾン水の導入が活発に行われています。オゾン水は高い酸化力を有するため、オゾン水と接液する金属、高分子材料の腐食・劣化を引き起こす場合があります。本機構では、流水下のオゾン水中における浸せき、又は、気液混合状態での浸せき処理が可能です。また、処理後試料について、表面形態の観察、力学特性試験や各種化学分析による劣化状態の評価を行います。

■ オゾン水曝露試験

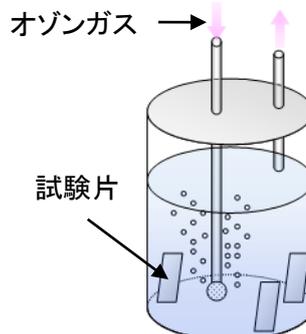
流水下のオゾン水浸せき処理



特徴

流水中での使用を想定しています。溶存オゾン濃度は 1~20 mg/L の範囲で設定可能です。流量も使用状況に応じて調整できます。

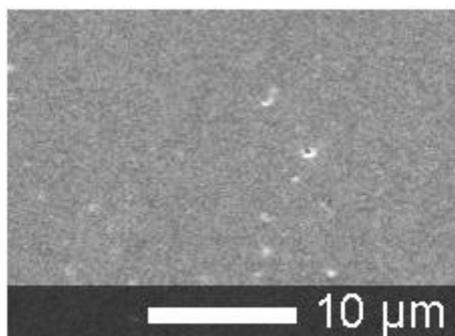
気液混合下のオゾン水浸せき処理



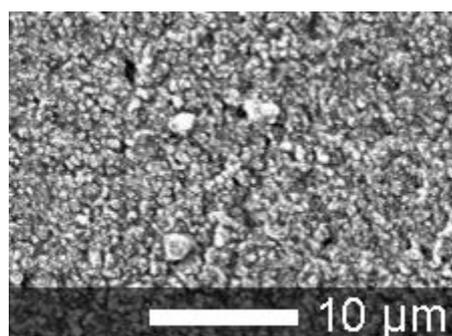
特徴

オゾンガスが吹き込まれる場所での使用を想定しています。純水以外に水道水、海水等にオゾンを混合する環境でも処理可能です。

◆ オゾン水処理したエチレンプロピレンゴムの表面形態



オゾン水処理



オゾン水処理後の本試料は、表面形態が荒れています。その他に、黒粉やべたつきの発生も認められます。